グアナファト交流事業報告

広島大学　総合科学部　田代　涼

３月１日から３月４日の間、私たち日墨グローバルシップ計画、広島県推薦の３人は広島県の友好提携先であるメキシコのグアナファト州への研修へ参加させていただきました。この４日間の中で、４ページでは到底書ききれない、また観光するだけでは知ることができない広島とグアナファトの深い関係性を身を持って感じることができました。

快適なバスに揺られ、グアナファト州のレオンへ到着しました。レオンはグアナファトの中心地とは雰囲気が全く異なり、企業や政府が多く存在しています。到着してすぐ、在レオン日本総領事館へ表敬訪問をさせていただきました。伯耆田総領事様からグアナファトについての説明を受けました。２０１１年をきっかけに、グアナファトへ広島の企業であるマツダを初めとし、多くの日本企業が進出しているそうです。その理由として、グアナファトは北米、ヨーロッパ、アジアから中心の距離に位置しているということ、安い労働力が多いこと、関税が安いこと、４６カ国と経済条約が結んであることといった理由が挙げられるようです。また日本人の在住者が増加していることから、街の看板の日本語表示や治安、子女のための学校設立など、様々なサポートが行われているそうです。

夕方からはグアナファトの大学生との交流会が行われました。彼らは、グアナファトが実施している日本への短期留学プログラムに参加したことがあり、その際に広島を訪れたことがあるそうです。「私が見たメキシコシティ / 広島」というのをテーマに話しました。日本がいかに綺麗な国かということが印象的でした。またマツダがメキシコに進出したことにより、どのような変化をもたらしたかについて、学生の意見を聞くことができました。印象に残っていることとしては、経済的な影響はポジティブにもネガティブにも捉えられるということ、またはそれ以外にも文化的な面で日本人に対して抱いていたステレオタイプとの違いに驚いたということです。日本人は「シャイで冗談を言わない真面目な冷たい人」というイメージを持っていたようです。実際は明るくて外国人に対して優しい日本人という存在に驚いたそうです。ネガティブな面としては、日本では公害対策がなされるのに、メキシコでは工場による公害が問題視されないのか、また従業員の給料についても異議を唱える声が聞こえました。

今回の研修では、個人的な旅行では見ることのできない部分を見させていただきました。グアナファトのみに関わらず、メキシコという国では各地の伝統工芸品が有名です。市場や道端、あらゆる所で売られているカラフルな雑貨に気を惹かれてしまいます。自由課題として私は「伝統工芸品」をテーマに調査しました。メキシコに存在する経済活動が人々の生活を実際に支えられているのか、グアナファトという観光地でモノを売ることの概要を実際に販売している方とのインタビューから見る

ことができました。グアナファトの中心地にある Mercado de Hidalgo(イダルゴ市場)という所から、インタビューを始めました。
ホセさん（自称１００歳）曰く、「グアナファトに売っているものがすべてグアナファトで作られているわけではい。当たり前だが、ここで私が売っているものは誰か知らない人が作って、自分で買い付けたものだ」つまり、私たちが喜んで買っていくお土産たちは、

その場所で作られた特別なものである可能性は低いということです。「昔は伝統工芸作家として働いていたが、今はそんな時間も体力もない。自分が売っているものに愛着すらない、だけど売らなければ生きていけないよ。」小さい頃から母親の仕事を見てきて、３０歳からずっと同じ所で働いていたそうです。
マリアさん（仮名）は　Casa de artesanía にて、自分の姪が作った工芸品を販売しているそうです。価格は自分で決めるのではなく、作家さんが設定金額を決めます。様々な国からやってくる観光客との関わりが好きなんだそうです。働き始めて、約２年ほどだそうですが、落ち着いた場所で働けるということや姪の作品を売ることにやりがいを感じるそうです。
アルマさんは、道端で置物を販売しています。彼女は普段は中心地から２時間ほどの場所にある工場で家族とともに工芸品の製作をし、土日に売りにやってくるそうです。「小さい頃から家族につくり方を教えられて、次は自分の娘に教える番なのよ。」このように、家族で受け継がれていくそうです。
　実際に働く人と話をしてみて、様々な動機がみられたのが興味深かったです。メキシコに来て、仕事に就くことができない人を多く見ます。道端にはものを売るだけではなく、歌を歌ってお金を求めたり、大道芸人が毎晩いたり。メキシコシティに比べ、グアナファトにはより多くいたように思います。観光客がお金をその地に落と

していくことが、彼らの生きる源になっているように感じました。これはもっと深く調査をしなければならないと思います。

グアナファトへは以前旅行で訪れたことがあったのですが、２回目のグアナファトはまた違うものを見ることができたと思います。モヒガンガという巨大人形を製作されているフェリペさんの工場にお邪魔させていただきました。彼は彫刻家でもあるため、モヒガンガの製作方法に彫刻の技術を用います。彼が製作を始める前、従来の方法で作られていたモヒガンガは雨には弱いうえ、表情もあまり素敵なものではなかったそうです。見るに見かねたフェリペさんは、オリジナルの方法を用いて新たなモヒガンガ作りを始めたそうです。材料も、トルティーヤが入っていた紙の袋を再利用するなど、かなり斬新な方法のようです。現在ワークショップなどを行い、他の作家へ彼の方法を伝える活動をしているようですが、「めんどくさい」「今のままでいいじゃないか」と言われることもあるそうです。新しいもの、今までの形が変わるのは、確かに少し抵抗があると思います。伝統をそのまま継承したいという人々の気持ちが強いのも確かです。しかし、伝統が大切にされている中で、新しいものを作り出すことも一つの伝統を継承していく方法なのだと気づきました。

今回の研修にて、広島とグアナファトがなぜ友好提携を結んでいるのか、そしてその関係が実際どれほどの影響を及ぼしているのかということを考えさせられました。これからも２つの地域がより深くそして広く関わっていくことに何か尽力ができたらと思いました。今回のグアナファト交流事業報告におきまして、広島県庁の皆様及び、関係者の方々へ厚くお礼申し上げます。